令和7年度

不登校支援に係る主体的な取組事例

県立学校版

不登校支援に係る主体的な取組事例

岩手県立大迫高等学校

取組事例から学ぶ

不登校支援に係る取組のポイント

★　学校が安全・安心な居場所となる「魅力ある学校づくり」を進めること
1　個に応じた「分かりやすい」学習指導の充実を図ること
2　児童生徒の SOS を受け止める教職員の力の向上を図ること
3　学級担任、教育相談コーディネーター、養護教諭、ＳＣ、ＳＳＷ等が連携し、多角的・多面的な児童生徒理解を可能とする教育相談体制を築くこと
4　校内教育支援センター等で、安心して過ごせるようにすること
5　オンラインやＩＣＴを適切に活用し、教育機会の提供や客観的な児童生徒の状況把握を進めること
6　校種を越えての情報連携を丁寧に進めること

岩手県教育委員会

岩手県立大迫高等学校

不登校を出さないための取組と対応

概要と成果

１　本校の特色

本校は、全校生徒４９名の小規模校である。生徒の内訳は花巻市内からの入学生が約８割、地元中学校からの入学生が約１割、県外からの留学生が約１割である。入学生の中には、中学校で不登校だった生徒や支援学級で学習していた生徒もおり、人間関係を構築することや環境の変化に対応することが苦手で精神的な疲労から体調を崩して欠席が多くなる生徒もいる。花巻市内の生徒は民間業者に委託した通学バス・タクシーか、石鳥谷駅から大迫までの路線バスで通学している。県外留学生は東北、関東、甲信越等から８名が在籍している。学校から徒歩３分ほどにある民間の宿泊施設を寮として使用しているため、部屋は個室で学習机・ベッド・冷蔵庫・風呂・冷暖房が完備され、その他に大浴場やサウナも利用できる等快適な環境で生活している。しかし一般的な寮と違い、食事時間以外は、起床・消灯の時間や掃除等の決まりがなく、生活面を管理する職員も常駐していないため、生活習慣を確立することが難しい面がある。

２　取組事例

（１）入学前に出身中学校を訪問して学習面や行動面、友人関係等を伺い、その情報を全職員で共有して入学後の支援に役立てる。（留学生の場合は出身中学校へ電話）

（２）よりよい人間関係を構築し、スムーズに高校生活に移行できるように入学後すぐに新入生研修を実施。

（３）いじめアンケート調査（年４回）や学校生活アンケート（年１回）、授業評価アンケート（年４回）心とからだの健康観察（年１回）を通して、生徒の不安や悩み、要望等個々の状況把握。

（４）欠席や遅刻の増加、表情の変化、業間や昼食時など休み時間の教室内での様子、提出物の遅れ等常に職員間で情報交換・共有しながら対応する。また、必要に応じて生徒の他に保護者もスクールカウンセラーに繋ぐなど相談体制を整えている。

（５）毎月の職員会議でも気になる生徒や心配な生徒の情報を交換し、職員全員で共有し対応。

（６）年に数回（学年毎に回数に違いあり）ぶどう作業を実施。身体活動を伴う作業を行うことで、相互理解や協調性、他者の尊重等の意識が高まり、安心して通える学校づくりの一助になっている。

（７）県外留学生の対応について

①寮での生活を含め学校外での生活については、花巻市の担当者や地域のコーディネーター、生活支援員と連携して対応。毎週金曜日、留学生、市担当者、生活支援員との間でミーティングを実施。

②遅刻・早退や欠席の場合は、留学生が保護者に連絡し、保護者から学校に連絡するルールの徹底。

課題

１　多くの場合不登校は突然では無く、何らかの予兆が積み重なって不登校になっていくものと思われるため、全職員が生徒の変化を見逃さず、常に情報共有をしながら早期に対応する体制を強化すること。

２　県外留学生の生活習慣確立のために、寮内での生活規則の整備や、市担当者及び地域のコーディネーター、生活支援員、保護者との連携をさらに強化すること。